

患者さんのカウンセリングの
スペシャリスト・薬剤師
井手口 直子

Ideguchi Naoko

- ◆薬剤師／患者さんと薬剤師をつなぐ
コミュニケーションが専門
- ◆日本大学 薬学部 講師
- ◆ヘルスカウンセラー、著書多数
- ◆(株)新医療総研 顧問



1987年 帝京大学薬学部薬学科卒業
1987年 株式会社望星薬局入社
1994年 同、退社
1998年4月～1999年10月
国立小児病院 小児医療研究センター
アレルギー科 無給研究員
1999年1月～現在
昭和大学医学部 小児科 特別研究生
2001年～ 東邦大学薬学部 非常勤講師
2003年3月～2006年3月
株式会社新医療総研 代表
2003年3月～
帝京大学薬学部 非常勤講師
日本大学薬学部大学院 非常勤講師
2006年4月～現在
日本大学薬学部ファーマシューティ
カルコミュニケーション学 専任講師
2006年4月～現在
株式会社新医療総研 顧問

**【薬剤師は身近な相談係！
薬局の薬剤師をどんどん利用しよう！】**

「病院で並んでる時間が面倒くさい」
「もらった薬の事をよく分からないまま飲んでる」
「病気のことで不安がある」
など、病気や薬に対して不安はつきもの。
そんな時に力になれるのが、身近にいる薬剤師。
薬剤師の任務は、薬剤師法という法律で
「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることに
よって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、国民の健康な
生活を確保するものとする」と規定されています。
つまり、薬局にいる薬剤師は、薬を売るだけでなく、
病気の治療や予防、健康の維持などのために、患者さんの
相談に親身に乗ることも仕事のひとつ。井手口さんは、
「薬局の薬剤師を身近な相談係としてどんどん利用して
ほしい」と、コミュニケーションの重要性を訴えます。

【井手口さんはカウンセリングのプロ】

井手口さんがカウンセリングの勉強に力を入れた理由は一。
「もともと、優秀な薬剤師とは『素早く正しい答えを出す人』
と考えていました。でも患者さんは違った。自分の気持ちを
わかってほしいんです。そこに気づいた時から、必死に
カウンセリングの勉強を始めました。
大学の薬学部が6年制になってからは、コミュニケーションは
必修科目になりました。薬剤師は病気や薬についての
カウンセリングのプロなので、安心して相談係として
頼れる存在だということを伝えたい」。
新時代の薬剤師の役割を世の中に広く伝えるため、
一般の人に向けたセミナー活動や、「薬局のしくみ」という
著書出すなど、様々な活動を精力的に行っています。



【資格】 薬剤師／ヘルスカウンセリング学会認定ヘルスカ
ウンセラー／日本カウンセリング学会認定カウンセラー／
日本教育カウンセリング学会認定上級教育カウンセラー

【ぜひ取材をご検討ください】 ・薬や病気との付き合い方 ・薬の常識・非常識
・薬剤師とのコミュニケーションについての講演・執筆 etc.

取材のお問い合わせは、ホワイトナイト（株）久保まで TEL：03-5414-2831